

巖神青

会長就任挨拶



第二十九代会長

高橋 数馬

先ず以つて、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げます。

常日頃より岩手県神社庁様をはじめ、先輩諸賢並びに関係各位におかれましては、岩手県神道青年会に対し、多大なるご指導とご鞭撻を賜っており、ますます事に心より御礼申し上げます。

去る平成二十八年十一月

十五日、岩手県神道青年会臨時総会に於きまして、会員の皆様からのご承認を賜り、第二十九代会長の重責を担うこととなりました。

昭和二十四年創立以来、先輩諸賢が紡いでこられた六十八年という長き歴史と伝統の重みに身が引き締まる思いでございます。元々浅学菲才の身ではございますが、会務に全力で取り組み、会員の皆様と共に一丸となつて様々な活動に邁進し、斯界の発展に努めていく所存でございます。

さて、我が国を取り巻く環境が目まぐるしく変化している昨今、国内外の問題はもとより、斯界の抱える問題も多種多様化してきております。このような様々な問題に對して私たちは青年神職としての立場から何ができるのか模索し、解決に向けた一

助となるべく行動に移していかねければなりません。そして決して忘れてはならない東日本大震災発災より七年が経過致しました、岩手県においても目に見える復興は着実に進んでおりますが、真の復興にはまだ至っておりません。時間が経過した中においても、我々青年神職は被災地に心を寄せながら、継続して復興支援を行つていく必要があります。

当会では、昨年度より時局対策委員会、事業頒布委員会、広報委員会の三つの委員会を立ち上げ活動を行いました。今年度は青少年の健全な育成に寄与することを目的とした青少年委員会を新たに立ち上げ、組織の更なる活性化を図ってまいります。そして、会員が同じビジョンをもち、団結することが大きな運動推進力となり、拡がりが見込まれると確信しております。

また、今年度は東北六県神道青年協議会長に藤原大修君を輩出してまいります。六県の事業としては、東日本大震災慰霊祭が当県で斎行され、来年度には東北六県禊鍊成

会の当番県として、志同じうする東北各地の青年神職をお迎えして事業を展開することとなっております。東北一枚岩となるべく、会長のフオローはもとより東北各地青年神職と交流を図りながら、強い岩手県を発信していきます。

そして平成三十一年には当会創立七十周年の佳節を迎えます。戦後間もない中、当会が創立されてより七十年の長き年月、先輩諸賢がその時代に即した運動を展開してこられました輝かしい歴史に感謝と敬意を抱きながら、未来へむけて更なる一歩を踏みだせるよう会員の皆様と共に準備をして参ります。

敬神生活の綱領の前文に「実践につとめて以て大道を宣揚することを期する」とあります。青年神職として、まずは斯界の尖兵となるべく行動に移していくことが責務であります。先輩諸賢の皆様におかれましては、私たち会員に対しご指導を賜りますようお願い申し上げます。会長就任の挨拶と致します。

会長退任挨拶



第二十八代会長

菅原 政憲

早いもので、平成二十七年四月に第二十八代の会長を引き継いでより、任期満了により此の度会長の職を退くこととなりました。岩手県神社庁様を始め、県内各神社宮司様、先輩諸兄皆様には多大なる御指導、御鞭撻を賜り、大過なく重責を果たせましたこと心より深謝申し上げます。そして会員の皆様には、この二年間諸事業を通し現執行部をお支え頂きましたこと誠に有り難く篤く御礼申し上げます。

さて、この二年間を振り返りますと、通常会務に加え、震災復興へ向けた支援活動、昨年度の日露戦勝百年、大東亜戦争

終結七十年の節目を迎えた英霊顕彰事業、いわて国体の開催における皇室尊厳護持運動、そして何よりも憲法改正に向けた時局活動を活動の柱に加えた活動を続けて参りました。

震災の復興に関しては復興への微かな光がうかがえる中、普段からの備えと祭祀を通しての人々の心の復興、祈りが大切であることを改めて実感致しました。

英霊顕彰事業に於いては、八月十五日の戦没者追悼平和祈願祭に当会として初めて御奉仕をし、また境内清掃を通し、御遺族の高齢化が叫ばれる中、私達青年神職が先に立ち常に御英霊に心を寄せるよう活動して参りました。

時局の活動として、国体開催に天皇皇后両陛下を始め多くの皇族の皆様が御来県された際には、国旗を掲げ県内県民を挙げて御奉迎出来たこととはとても嬉しく感極まったところでございます。また、私達の悲願でもある自主憲法制定に向けて当県の情勢を鑑みながらあります、神社庁様を始め

関係団体との連携強化を図り、チラシ配布や署名活動等の草の根の活動を今も続けております。それに加え、参議院選や県議会選における選挙活動、参院選において私達と同じ思いを持った方を当選まで押し上げる事が出来なかつたことは後悔をしております。しかし、この活動はやがて来る国政選挙の場にて大きな糧となるはずです。

そして、今期で八回目を迎える親子禊錬成会、少年院少年刑務所における収穫感謝祭。また、最も大きな事業として当会は来年七十周年の佳節を迎えます。高橋新会長の下、今後実行委員会が立ち上げられ、様々な事業が展開されていくことと思えます。素晴らしい新執行部に加え、東北六県では藤原大修君を会長として全国、東北の中心として活躍しております。

藤原庁長が就任当初「強い神社界、強い岩手を作る」とおっしゃられておりましたが、その為には強い青年会が必要です。会を作るのは執行部でも役員でも無く会員それぞれです。今ま

で以上に関係諸団体との連携を深め、いつ何時でも直ぐに活動出来る強い岩手の為の体制を構築出来たと思っております。

今我が国は大きな転換期に差し掛かっております。国会でも憲法改正の議論が活発になつて参りましたが、米国を始め近隣諸国との関係は予断を許さない状況となつております。その中で、日本人としての誇り、伝統と歴史、文化に彩られた美しい日本を自分達の手で護る為には、何をしなければならぬいか明白かと思えます。

結びに、七十年の間、先輩方の手で築き上げられた岩手県神道青年会の会長という重責を担わせて頂いた御神慮はもとより、お支え頂いた先輩諸賢を始め多くの皆様に改めて感謝申し上げますと共に、会員各位におかれましては、結果を求めながらも楽しく、美しい未来の為に高橋新会長の下、心をひとつに会務に取り組んで頂きますようお願いを申し上げます。退任の御挨拶と致します。



藤原庁長より激励賜る



菅原前会長挨拶



懇親会は大通 八兵衛にて

議事

- 1、平成二十八年度会務報告の件
- 2、平成二十八年度収支決算の件
- 3、平成二十八年度東日本大震災復興活動報告並びに特別会計収支決算の件
- 4、会則変更の件
- 5、役員改選の件
- 6、平成二十九年度活動方針案の件
- 7、平成二十九年度予算案の件

平成二十九年度定時総会
高橋会長による新体制が決定。平成二十九年度活動方針・予算決定

平成二十九年度定時総会は、五月十六日（火）岩手県神社庁を会場に、藤原神社庁長を来賓に迎え、会員三十名出席の下、開催された。

冒頭、藤原庁長より、時代の変化に際し諸先輩が常に先頭に立ち道を切り開いたことに思いを馳せ、現在の激動の時代に青年会の果たす役割は大きく、神社庁と両輪となり活動するよう期待を込めた祝辞を賜った。

議事は播磨常任委員が議長に選出され、進行。会則変更承認後、新執行部に体制が変わり、新役員について高橋会長より指名、直ちに承認となった。すべての議案は原案の通り可決されたほか、東日本大震災特別会計は平成二十八年度末をもって閉鎖された。

総会後は、盛大に懇親会が行われた。

東本大震災復興支援活動
 鵜住居復興スタジアム
 整備工事安全祈願祭助勢

四月二十七日(木)、当会
 花輪常任委員の要請により、
 標記助勢活動を行った。

当日は、鵜住社に集合の
 後、所役を決め会場へ移動。
 会場内にて施工側の司会の
 方と打合せをし習礼。

平成三十一年ラグビーワ
 ールドカップにも使用予定
 の釜石鵜住居復興スタジア
 ム(仮称)整備工事安全祈願祭
 を鵜住社 花輪宗嗣宮司齋
 主のもと、斎行した。

祭儀には釜石市長を始め
 ラグビー関係者、地元関係者、



工事関係者また鵜住居小学
 校児童会長、釜石東中学校生
 徒会長など約百名が参列し
 た。花輪宮司が祝詞奏上、菅
 原地区委員・谷藤書記が切麻
 散供の後、釜石市長や児童会
 長、生徒会長など十六名が一
 斉に歛入れ。関係者から盛大
 な拍手が上がった。

祝ご結婚!

高橋 悠太 地区委員
 美保 夫人
 五月三日挙式

祝ご誕生!

熊谷 政秀 監事
 長男 旭暁(あさひ)君
 四月十九日ご誕生

中野 忠司 会員
 長女 伊奈海(いなみ)さん
 四月二十五日ご誕生

活動報告

(自平成二十九年四月至五月)

四月四日 神社庁神殿例祭
 菅原前会長参列

四月十三日 第十二回東北
 六県神道青年協議会役員

会(岩手県神社庁)

四月十六日 「国に届け!

十八歳選挙権」街宣活動拝

聴(奥州市内)

四月二十四日 第十一回役

員会・岩手護國神社清掃奉

仕活動

四月二十六日 第六十九回

神道青年全国協議会定例

総会(神社本庁)高橋会長、

小保内・藤原両副会長出席

四月二十七日 東日本大震

災復興支援活動(鵜住居)

(別記記事)

五月十六日 平成二十九年

度定時総会(別記記事)

五月三十日 平成二十九年

度東北六県神道青年協議

会禊錬成会(宮城県・松島)

高橋会長以下十八名受講

(記事次号掲載)

編集後記

高橋新会長の下、広報委員
 会も多田前委員長から引継
 ぎ、まずは今号の発行となり
 ました。

前会長・新会長の挨拶にも
 あります通り、今期は創立七
 十周年を迎えます。七十年の
 歩みを振り返るためには、先
 輩方からの話を伺うことは
 もちろんのこと、多くの記録
 を検証しなければなりません。
 『岩神青』は、当時を知る
 上での重要な資料です。今
 期も責任を果たして参りた
 く存じます。(威)

発行所 岩手県神道青年会
 住所 二戸市福岡字松の丸二一呑香稻荷神社社務所内
 電話 〇一九五・二三・二〇四二
 FAX 〇一九五・二三・八九〇三